

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2016年9月)

発表日2016年10月14日(金)

～先行きは前月比プラスが見込まれる～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 伊藤 佑隼

T E L : 03-5221-4524

(単位: %)

		国内企業物価		最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2015	1月	▲ 1.3	0.3	▲ 1.1	▲ 2.5	▲ 1.3	0.5	▲ 2.8	2.2	▲ 6.2	▲ 6.7
	2月	▲ 0.1	0.4	0.1	▲ 2.4	▲ 0.1	0.4	▲ 0.9	2.7	▲ 5.8	▲ 10.4
	3月	0.3	0.7	0.5	▲ 2.0	0.2	0.6	0.6	3.4	2.2	▲ 8.2
	4月	0.1	▲ 2.1	0.3	▲ 1.5	0.1	▲ 2.1	▲ 0.6	2.8	▲ 2.1	▲ 9.8
	5月	0.2	▲ 2.2	0.2	▲ 1.2	0.3	▲ 2.1	1.2	4.8	0.4	▲ 8.7
	6月	▲ 0.2	▲ 2.4	0.2	▲ 1.1	▲ 0.2	▲ 2.4	1.6	6.6	3.2	▲ 5.9
	7月	▲ 0.7	▲ 3.2	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 3.1	▲ 1.4	5.3	▲ 1.8	▲ 7.4
	8月	▲ 0.6	▲ 3.7	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 3.6	▲ 0.8	3.6	▲ 2.1	▲ 9.9
	9月	▲ 0.5	▲ 4.1	▲ 0.2	▲ 1.7	▲ 0.5	▲ 4.0	▲ 2.8	▲ 1.3	▲ 4.4	▲ 15.6
	10月	▲ 0.4	▲ 3.8	0.2	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 3.7	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 1.4	▲ 15.8
	11月	▲ 0.1	▲ 3.7	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.1	▲ 3.6	0.7	▲ 5.3	0.6	▲ 17.7
	12月	▲ 0.4	▲ 3.6	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 3.6	▲ 1.0	▲ 6.9	▲ 2.8	▲ 18.6
2016	1月	▲ 1.0	▲ 3.3	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 3.6	▲ 2.8	▲ 6.8	▲ 5.8	▲ 18.3
	2月	▲ 0.3	▲ 3.5	0.0	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 3.8	▲ 2.1	▲ 7.9	▲ 5.1	▲ 17.7
	3月	▲ 0.1	▲ 3.9	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 4.1	▲ 0.7	▲ 9.1	▲ 1.3	▲ 20.5
	4月	▲ 0.4	▲ 4.3	▲ 0.1	▲ 1.5	▲ 0.4	▲ 4.5	▲ 1.3	▲ 9.7	▲ 1.3	▲ 19.9
	5月	0.1	▲ 4.4	0.0	▲ 1.8	0.1	▲ 4.7	▲ 0.4	▲ 11.1	▲ 0.1	▲ 20.3
	6月	▲ 0.1	▲ 4.3	0.3	▲ 1.6	▲ 0.1	▲ 4.6	▲ 2.3	▲ 14.5	▲ 0.8	▲ 23.4
	7月	▲ 0.2	▲ 3.9	▲ 0.4	▲ 1.9	▲ 0.2	▲ 4.2	▲ 0.9	▲ 14.1	0.3	▲ 21.8
	8月	▲ 0.3	▲ 3.6	▲ 0.1	▲ 1.8	▲ 0.3	▲ 3.9	▲ 1.3	▲ 14.6	▲ 2.4	▲ 22.1
	9月	0.0	▲ 3.1	0.1	▲ 1.4	▲ 0.1	▲ 3.5	0.4	▲ 11.8	1.0	▲ 17.7

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○ 9月の国内企業物価は前月比 0.0%と横這い

日本銀行より発表された2016年9月の国内企業物価指数は前年比▲3.2% (コンセンサス: 同▲3.2%、レンジ: 同▲3.4%～▲2.9%)、前月比では0.0% (コンセンサス: 同▲0.1%、レンジ: 同▲0.3%～+0.1%) という結果となった。

夏季電力料金調整後の前月比の内訳をみると、プラスに寄与したのは農林水産物 (前月比: +1.1%、前月比寄与度: +0.04%ポイント)。マイナスに寄与したのは電力・都市ガス・水道 (前月比: ▲0.7%、前月比寄与度: ▲0.04%ポイント)、プラスチック製品 (同: ▲0.3%、同寄与度▲0.01%ポイント) などであった。

農林水産物は、鶏卵や玄米などの価格が上昇したことから、前月比プラスとなり国内企業物価を押し上げた。一方で、過去のLNGや石炭価格の低下を反映し、電力価格が値下がりしたことから電力・都市ガス・水道は前月比マイナスとなった。農林水産物の上昇分を電力・都市ガス・水道が打ち消す格好で、9月の国内企業物価は前月比横這いとなった。

力強さはみられないものの、国際商品市況が持ち直していることや電力・都市ガス・水道の下押し圧力が弱まるなかで、国内企業物価は前年比マイナス幅を縮小させている。

○輸入物価は円ベース、契約通貨ベースともに上昇

9月の輸入物価をみると、契約通貨ベースでは、原油価格が堅調に推移したことなどを背景に石油・石炭・天然ガスが上昇に寄与し、前月比+0.5%となった。円ベースについても前月比+1.0%と8月の前月比▲2.4%から再び前月比プラスに転じた。円ベースの輸入物価は、16年入り後の円高の進展により低下基調にあったが、足元では円高の一服によって、下げ止まりつつある。

○消費財の国内品は前月比+0.1%、前年比▲1.4%

需要段階別指数（国内+輸入）をみると、素原材料は前月比+1.8%（前年比▲18.8%）、中間財は同▲0.1%（同▲6.4%）、最終財は同▲0.2%（同▲3.5%）となった。消費者物価と関連の深い消費財の国内品は、前月比+0.1%（前年比▲1.4%）となった。素原材料は原油価格が上昇したことなどを背景に、再び前月比プラスに転じた。足元では原油相場は堅調に推移しており、川上から川下への下押し圧力は和らいでいくことが予想される。

○先行きは前月比プラスが見込まれる

このように夏季電力料金調整後の9月の国内企業物価は、農林水産物の上昇分を電力・都市ガス・水道が打ち消す形で、前月比変わらずとなった。

先行きを展望すると、過去の原油安による下押し圧力が一巡することで、電力・都市ガス・水道は前月比でプラスに転じていくことが見込まれる。また、足元では、OPECの減産決定を受けて原油価格が堅調に推移している。このことから、目先の国内企業物価は前月比プラスに転じ、引き続き前年比のマイナス幅を縮小させていくことが予想される。

